

Participant Report on International Workshop on New Concepts of  
Plant Nutrient Acquisition

T.P. Rao (School of Agricultural Sciences, Nagoya University) ..... 4 8

紹介	研究室・研究機関紹介(11)	
	富山大学理学部生物学科 生体構造学講座	
	唐原一郎.....	5 0
情報	第10回研究集会のお知らせ.....	5 2
	日本でのISRR開催に向けて.....	5 4
	カレンダー.....	5 6
	会告.....	5 7

会員の皆様へ

1. 本号の内容

著者、評議員、会員の皆様のご協力によりまして、本号も充実した内容にすることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、今回初めて「短報」というカテゴリーを設けました。内容も原著性を要求され、2名の校閲者の査読を経ています。今後なるべく間口を広げて、会員の皆さんの財産を共有していく方向を目指したいと思っておりますので、積極的な投稿・寄稿をお願いします。

2. 研究会賞

これまでの2回の選考によって各賞の性格が明確になってきたと思います。今年度の推薦の締め切りは7月末日です。積極的なご推薦をお願いします。選考結果は次号でお知らせします。詳細につきましては次ページをご覧ください。

3. 研究集会

今回の研究集会(第10回)を10月3日(土)に東京大学農学部で開催します。なお上記の研究会賞の受賞講演および授賞式もあわせて行います。詳細は52ページをご覧ください。

またこの前日には第40回土壌物理研究会シンポジウム(テーマ:根と土壌)が同じ東京大学農学部で開催されることになっており、本研究会としても積極的に協力させていただくことにしました。会員の皆さんの積極的な参加および講演者の推薦をお願いします。ご参考までに、土壌物理研究会がご用意されたシンポジウムの趣旨の一部を掲載します。

「根は土と植物地上部の接点ですが、The hidden halfといわれるように未知の部分が多く、多大な労力のかかる仕事でいままでに地道な研究が行われてきた分野です。土壌水分や土の硬さなどは根の生育と発達を規制する環境要因です。また、根が作る構造は土壌の物理性に影響を与えます。一方、根に吸収されない過剰な養分は環境負荷の原因にもなります。根の研究は多くの分野で取り組まれております。そこで、今回は、「根研究会」にも参画していただき、最近の根と土壌に関わる研究を取り上げることにしました。」

なお日程等の詳細は本誌のカレンダー情報の項をご参照下さい。

第9回研究集会(6月6・7日開催)についての報告および要旨は次号に掲載します。

4. 第7回ISRR国際会議日本開催に向けての準備

International Society for Root Research (ISRR) は4年に1回の割合で国際会議を開催してきました。次回(第6回)はオランダで開催される予定になっています。そして森田前根研究会会長(現ISRR副会長)のご努力で、その次の会議(2002年)が日本で開催される予定になっています。

そこで組織委員会を発足させ、本格的に準備を始めることを提案させていただきます。この件につい

ては評議員の皆さんにはお諮りしてきたところですが、ホストである私たちにとって有益で、楽しめる会議にすることを基本方針とし、また研究会としても、日本の根の研究成果を世界に発信する絶好の機会と捉えたいと思います。

そこで、会員の皆さんの組織委員会への参加を呼びかけます。なるべく多くの会員の皆さんに、各自の条件に応じた形で組織委員会に参加していただき、研究会全体としてこの企画に取り組みたいと存じます。詳細につきましては54ページをご覧ください。

## 5. 根の事典

森田さん、阿部さんが中心となって進めてこられました「根の事典」は現在著者校正の作業に入っております。順調に進めば年内に出版される予定です。

## 6. 「農業および園芸」連載記事のとりまとめ

「植物の根に関する諸問題」と称する連載記事が「農業および園芸（養賢堂発行）」掲載されていることは皆さんご存じのことと思います。1993年に始まったこの連載は、多くの会員の方々にご執筆いただき今月の時点（第73巻第6号）で、第59回目となります。これは研究会としてもたいへん大きな財産ですので、60回分を一区切りにしてとりまとめ出版する企画が、森田さんを中心に進んでいます。詳細につきましては次号にてお知らせいたします。

1998年6月 会長 山内 章

## 1998年度根研究会賞推薦のお願い

以下の規定に基づき、1998年度根研究会賞の推薦をお願い致します。自薦・他薦を問いませんし、推薦者は会員でなくても結構です。ご推薦に当たっては、A4版の紙に候補者氏名、業績タイトル、業績の概要や意義などを記載し、業績一覧表および論文などのコピーを添付して下さい。

送り先は事務局で、締め切りは7月31日到着分までとします。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学農学部作物科学講座内 根研究会事務局

## 根研究会学術賞規定

1. 本会は、会則第3条に基づき、本規定を定める。
2. 本会は、植物の根（その他の地下器官を含む、以下同様）およびこれを取り巻く環境に関する学術の発展に寄与したものに対して根研究会賞を贈り、これを表彰する。
3. 根研究会賞としては、根研究会学術功労賞、根研究会学術奨励賞、根研究会学術論文賞、および根研究会学術特別賞をおく。根研究会学術功労賞および根研究会学術奨励賞は、植物の根およびこれを取り巻く環境に関する学術の発展に寄与した根研究会会員の研究を対象とする（すでに原著論文として発表されたもので、少なくともその一部が、根研究会の研究集会・シンポジウムなどの会合、あるいは会誌などで会員に紹介されていること）。根研究会学術論文賞は、植物の根およびこれを取り巻く環境に関する学術に寄与した根研究会会員の論文を対象とする。発表媒体や発表形態（例えば、原著論文であるか総説であるか）を問わない。根研究会学術特別賞は、植物の根およびこれを取り巻く環境に関する学術の発展に寄与した業績を対象とする。会員であるかどうか、また業績の形態（例えば、出版物かどうか）を問わない。
4. 根研究会賞はいずれも、会員もしくは関連分野の研究者などから推薦のあった対象について、評議員が審議し、その結果を踏まえて、会長および副会長が協議して決定を行なう。ただし、会長および副会長は任期中および任期満了後2年間は推薦すること、あるいは推薦されることができない。